

インターン体験記

高見 莉都

2017年10月12日。JFCネットワークにインターンシップ応募メールを送ったこの日から、もう1年以上経っているのかと思うと「まさに光陰矢の如しだなあ」なんてびっくりします。そもそも私がJFCネットワークに興味を持った理由は2つ。大学でコミュニティ通訳（司法・医療・行政の場での日本に暮らす外国人のための通訳）を学んでいたこと、海外ボランティアでフィリピンを訪れた経験があることです。自分の学んでいることを活かして、大好きなフィリピンの為に日本でなにかしたい！という想いが始まりでした。

事務所で10か月間インターンとして翻訳作業に携わったなかで感じたのは「翻訳の難しさ」です。出生証明書、婚姻契約書、血液型診断書…JFCネットワークで翻訳する証明書類は、大抵の場合フォーマットがあります。始めは、すべての文書をフォーマットに則りきちんと訳すことだけに集中していました。法的な手続きに必要な文書なので、当然ながら正確である必要があります。しかし気が付いたのは、その一枚一枚の向こう側にはクライアントの人生があるのだということ。私は翻訳作業の前に、クライアントたちの基本情報確認のため、ケースの概要報告書を読むようにしていました。ときにはクライアントの置かれてきた境遇に同情したり、JFCの父親に対する憤りを覚えたりしたことも。そんな感情を翻訳に反映させないように一単語一文に向き合う作業は、難しかったけれど決して飽きることなく、毎週の作業には小さな発見が溢れていました。

また、私は来日したてのフィリピン人の男の子（S君）の家庭教師をさせていただく機会もいただきました。11月から2月まで週に一度ほど、高校受験にむけて国数英の教科指導を行いました。英語を交えながら問題の意図や算数の公式を説明するのは非常に苦労しましたが、結果彼が無事高校に入学できた時は嬉しい気持ちでいっぱいになりました。実際にS君をサポートする中で、来日したばかりの時期にどのようなことが大変なのか、在県外国人特別募集はどのような制度か、などを考えるきっかけになりました。今後も、S君にできる限りの協力したい！と考えていますし、外国にルーツのある子どもたちにどのような教育が求められるのか、私なりに考え続けたいです。

細かい出来事はまだまだ沢山ありますが、ひとまず以上を私のインターン体験記とさせていただきます。この10か月間様々な経験から知識を蓄え、考え、少しずつ行動に移せる人間になれたんじゃないか、なんて考えています。そしてJFCの為に本気で考え奔走されている事務所の方々の力になれたことを、とてもとても光榮に思っています。ありがとうございました。

